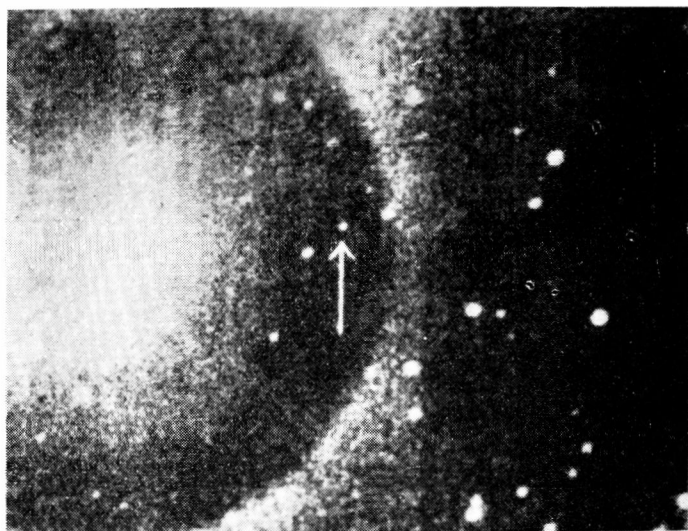


超海王星の初姿

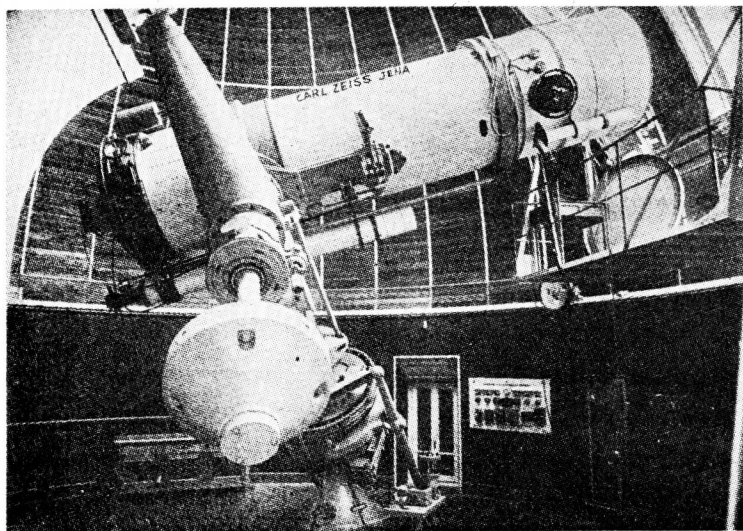
去る三月十三日米國から全世界に飛んだ電報によれば、フラグスタフ町にあるローエル天文臺では、ローレンス・ローエル望遠鏡によつて、去る一月二十一日以來「双子座」の寫真觀測を行つた結果、デルタ星の附近に確實に超海王星を發見したといふ。ロ



ローエル天文臺から電報には、三月十二日の日、此の星がデルタ星の西7秒時の位置にあると報じてゐる。こゝに掲げる寫眞は、三月十七日に米國シカゴ市外のヤーキース天文臺で、60センチの反射鏡により、ブンビースブルク教授が撮影したものを、非常に廓大したものである。矢の尖端にある星が目的の「超海王星」で、光度は十五等級。此の超海王星の左にある大きい白像はデルタ星そのもの、又超海王星の右側を通過してゐる白い弓形は、デルタ星の光

りのために、寫真原板上に出來たハレーションである。

これが寫真として世界に發表された超海王星の初めての御目見え姿である。此の星は三月末までは、ごく、ゆつくりと、西方へ逆行してゐたが、其の後順行に移つた。しかし運動が極めて徐々としてゐるので、今年中はデルタ星の側を離れない。六月になれば、「双子座」の近くへ太陽がやつて來るので、觀測が不可能になるが、八月には太陽の光りの外に出るため、先づ曉の東天に見えるやうになり、それから漸次好く見えるやうになる。地球に最も近く、従つて最も都合よく觀測されるのは、來年一月初め頃である。但し、之れを見るのに、20 センチ以下の望遠鏡では絶対に駄目。我が日本に於いて此の超海王星が撮影されるのは、京都花山天文臺にある 46 センチ、25 センチ、16 センチの三つの反射鏡のみである。



イタリア國アルプス麓にある新設メラート天文臺の大反射鏡
目下超海王星の觀測をやつてゐる